

避難行動要支援者管理システムとは

災害多発の昨今、日々危機管理下と言っても過言ではありません。「避難行動要支援者管理システム」は平常時の避難行動要支援者の総合的な管理・運用及び緊急時・災害時に避難行動要支援者情報に対して様々な角度から検索を行い、介護・救護が必要な方の現況情報を的確に把握するなど、援護活動を行うものが速やかに避難行動要支援者を支援できるように補助するものです。

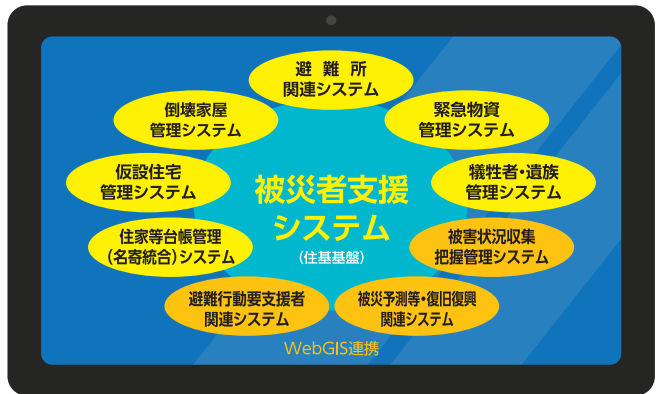
「避難行動要支援管理システム」の特徴等

- 01 基礎自治体の立場で住民基本台帳を基盤とする住民情報システムと連携し、災害対策基本法により、市町村に義務付けられた機能を全て含んでいます。
- 03 この汎用システムは、全ての地方公共団体が無償で利用できます。

動作推奨環境	
サーバ環境	
OS	AlmaLinux 8.9、Rocky Linux8.9以降
Webサーバ	Apache2.4.37以降
Script言語	PHP7.2.24以降
データベース	PostgreSQL10.23以降
WebGIS連携を導入する場合	GISエンジン
	MapServer7.4.5
	DBエンジン
Postgis-2.5.11 (PostgreSQLのバージョンに依存)	
GIS関連データ	
住所辞書(※1)、背景地図、航空写真、住民地図(※2)、ノード情報(※3)	
クライアント環境	
ブラウザ	Microsoft Edge
	Google Chrome 41.0.2272.89以降
	Mozilla firefox 36.0.1以降
	Safari 5.1.7以降
PDF表示(外字対応)	SkyPDF Viewer/Standard/Professional
管理帳票表示	Microsoft Office Excel 2016/2019/2021

※1住所辞書とは、住民基本台帳等で管理している住所情報(住所コード)に位置座標を対応づけたデータ(CSV形式ファイル)のこと。
※2住民地図とは、自治体既存の地図データ(都市計画基本図や航空写真等)を活用して住民基本台帳の世帯と連動する精度の高い自治体独自の住宅地図(著作権は自治体に帰属)のこと。
※3ノード情報とは、経路検索で使用する道路の交差点ごとに配置されたポイントデータのこと。

- 02 GIS及び福祉CS(福祉情報の一元化)を活用することで完璧な台帳管理が出来ます。さらに医療、投薬、地域ケア情報等を取り込むことによって、より詳細且つ具体的な現場支援が可能となります。
- 04 災害時にJ-LIS被災者支援システムとデータ及びシステム連動(連携)が可能で、最適な被災者(災害弱者等)支援業務が出来ます。



- 05 団体における個別カスタマイズ及び追加オプション対応にも可能です。

- ・自動バックアップ
- ・窓口受付／問い合わせ内容登録
- ・その他ご要望に応じて

●デモサイトを公開中 ▶ URL http://gis.nmc.jp/hinan_sien_v650/login.php

●問合せ先 (ご利用ご検討の団体は下記までご連絡下さい)

- システム導入支援担当：E-Mail hinankoudoukanri@gmail.com 携帯電話 080-7234-1148
- システム開発者(J-LIS被災者支援システム全国サポートセンター長：吉田 稔)
E-Mail yoshida@cko.jp 携帯電話 080-5344-2754
FAX 0798-32-8865

避難行動要支援者管理システム



“Hope for the best, but prepare for the worst”
(最善を望み、最悪に備えよ)



地方自治情報センター(現J-LIS)「地方公共団体業務用プログラムライブラリ」に登録済(平成25年3月31日閉局)の地方公共団体用「汎用OSS版Webシステム」

● 目的

●住民の生命・財産を守る安全・安心への取組を、行政はどのような時も求められています。
災害時における弱者救済には、住民がお互いに助け合い、励ましあう、協働による地域コミュニティの形成は不可欠であり、それらの支援を行政として、より効率的・効果的に促進することも課題です。又、行政は「DX推進」等の実施においても「安全・安心への対応」を重要な課題にしていることから、日々避難行動要支援者管理も必須となっており、さらに、危機管理対応から見た解決課題は、住民に真に役立つ災害対策です。
この間、阪神・淡路大震災はもとより、東日本大震災での未曾有の被害は筆舌に尽くしえません。特にここでの犠牲者実態を見てみると圧倒的に災害弱者といわれる高齢者や子供及び障害のある方々であることが明白です。この事から実践的な災害対策を推進する上では、過去の経験や教訓から高齢者や障害者を始めとした災害時等避難行動要支援者に対する対策が喫緊の課題となっています。



台帳管理

台帳の管理(参照、追加、編集)や支援記録の管理を行います。
避難行動要支援者台帳管理の主たる機能となります。

避難行動要支援者の台帳情報の管理機能です。各種条件による検索や、各種台帳・避難経路・被災者台帳の参照(閲覧)が可能です。ログイン権限により台帳の新規追加も行えます。

避難行動要支援者の個別台帳の表示。
本画面では支援者に関連する各種台帳の表示や、避難経路、被災者台帳の表示を行うことができます。

検索結果一覧画面。この画面から個別台帳の表示、住所辞書を利用した位置図(地図)の表示、台帳の編集、一覧のエクスポート(ダウンロード)を行うことができます。

支援記録管理

避難行動要支援者の支援記録を管理する事ができます。支援記録は、支援の内容(メモ)、関連する文書(PDF、Excel、Word等々の各種ファイル)の登録が行え、支援の詳細情報を管理します。また、要援護者台帳を直接表示することもできます。

台帳の表示▶

支援記録は登録の際に、避難行動要支援者毎に履歴が作成されますので、現在に至るまでの経緯の確認を行うことができます。

支援記録詳細▶

関連文書等の確認(表示)▶

- ①処方箋
- ②お薬手帳(電子カルテ)
- ③配食カレンダー
- ④介護器具
- ⑤避難経路
- ⑥その他、生活支援サービス関連資料等の登録が可能です



データ管理

システムで利用する各種基礎データやマスターデータの管理が行えます。避難行動要支援者管理システムでは各種福祉情報(高齢者、障害のある方、介護、生活保護、妊婦等)を取り込み、避難行動要支援者として管理します。また個人情報(住基情報、世帯情報)をCSVで取り込むことも可能です。その他に避難所情報、防災倉庫の情報を取り込むことで、住所辞書を利用して地図上に表示する事ができます。

システムで使用するデータのメンテナンスが可能のため、ユーザ側でシステムの保守作業を行うことができます。



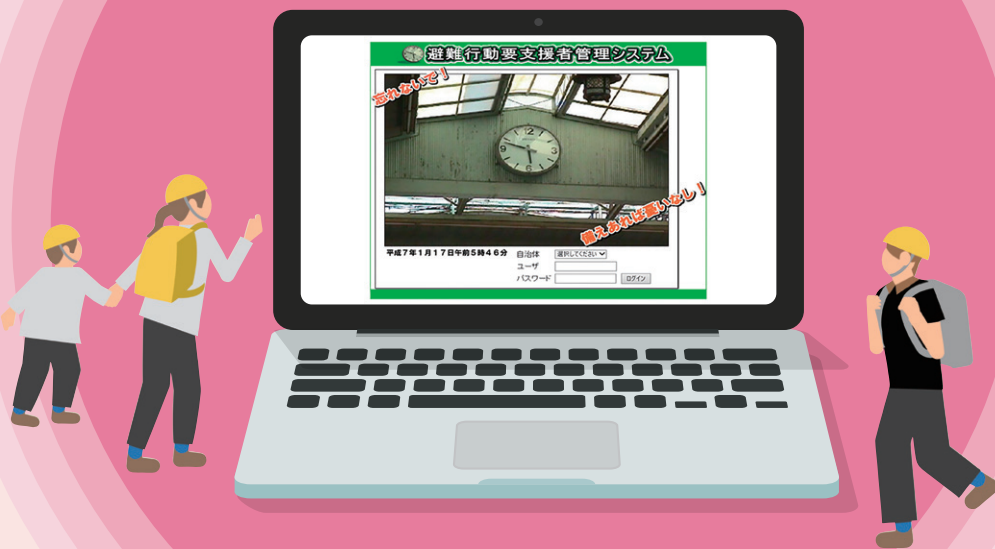
システム管理

システムの動作に関わる設定をおこないます。システム環境設定では、被災者支援システムとの接続設定、マスターテーブルの編集可否、各種コードの桁数設定等が行えます。また「ユーザ定義台帳」機能で、避難行動要支援者台帳以外の項目や管理名を自由に設定して、避難行動要支援者台帳と連携する事ができます。

システムで使用する設定のメンテナンスが可能のため、ユーザ側でシステムの保守作業を行うことができます。

避難経路を手動で作成(地図上に手動で線を描き作図)して、避難行動要支援者に登録する事ができます。

避難行動要支援者管理システム



地図管理

WebGISを使用して地図上で避難行動要支援者の管理を行います。
面(円、多角形)でのエリア検索や各種条件検索も可能です。

避難行動要支援者の地図検索機能です。WebGISによる地理的な検索(エリア検索)を使用して、対象者を「面」で抽出する事ができます。検索された避難行動要支援者は地図上で強調表示されるため、密集状態等視覚的に判断ができ、統計表「世帯、身体状況、男、女別集計」も自動で作成されます。また、経路検索機能により避難行動要支援者の自宅から避難所までの経路を検索、結果の経路については「避難経路」として避難行動要支援者へ登録する事ができます。

※経路検索で作成された経路については避難行動要支援者に「避難経路」として登録する事ができます。